

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200198		
法人名	株式会社 ケアフロンティア		
事業所名	グループホーム さんぼ道		
所在地	栃木県足利市山下町2325-1		
自己評価作成日	平成26年2月27日	評価結果市町村受理日	平成 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年3月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

さんぼ道に関わる全ての方が
 ころ豊かに・・・楽しく・・・快適・・・を基本理念に毎月1回以上のお食事会やご家族様と共にお花見、
 地域の方も参加して頂いたレクリエーションや音楽会など社会との交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、足利市の西部、JR両毛線山前駅の北に位置し、すぐ東側を北関東自動車道が通っている。周辺は山の麓に広がる閑静な住宅地で、自然環境にも恵まれ、同一法人が運営する小規模多機能型居宅介護事業所が併設されていて、イベントなど合同で行っている。開設から、まもなく3年が経過するところであるが、基本理念である「ころ豊かに、楽しく、快適」な生活が過ごせるよう、利用者の支援に努めている。特に、地域との交流には力を入れており、地元の夏祭りに協力したり、散歩の際に顔なじみになった地域住民を事業所の演芸行事に招待したり、様々な場面を通して交流を深めている。また、要介護度の高い利用者があるため、終末期に向けた対応についても、主治医との連携を強化して取り組みを進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初より、「こころ豊かに」・「楽しく」・「快適」という基本理念を掲げ職員は理念を共有し理念に基づいた介護を心がけている。	基本理念は、玄関に掲示してあり、新規職員採用時研修に理念について説明している。さらに職員会議において再確認し、理念の共有化と実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、夏祭りの協力や子供神輿の休憩場所としての提供、散歩時に顔なじみになり地域の一員としての交流を深めている。	自治会に加入し、夏祭りや子供神輿などの行事を通して交流している。演芸ボランティアが来所する時などには、毎日の散歩で顔なじみになった地域住民を招待している。地元の学童保育所の子供たちの訪問による交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて自治会長、民生委員、地域の方々へ認知症を理解して頂けるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1度開催している、参加者は自治会長・民生委員・市担当職員・入居者様・入居者様家族が参加。ホームの活動状況や行事の報告を通じ意見交換をしてる。	運営推進会議は自治会長、民生委員、市担当職員、利用者、家族を構成員として、2ヶ月に1回開催している。消防署立会いのもと総合避難訓練の実施後に会議を開催したこともある。活動状況や行事報告を行い、情報と意見を参考にサービス向上に活かしている。	会議は地域の意見や駐在所などの警察官に参加を要請することや、時にはより多くの家族が参加できるように、夜間や土曜日、日曜日の開催の検討を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは、運営推進会議時事業所の運営上の課題や制度上の相談を行っている、他事業所の状況やケアの検討を行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や助言をもらうほか、分からないことがあれば、随時連絡し、相談をしている。市も積極的に対応してくれ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルを基に会議等で勉強会をしている、施設内には身体拘束排除理念を及び方針を掲げており日中玄関には鍵はかけておらず夜間は保安のため施錠している。	玄関に、身体拘束排除理念及び方針を掲示している。また、身体拘束についてのマニュアルを職員会議で確認している。日中は、玄関及び門の施錠はしていない。言葉による拘束もしないよう注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で勉強会を通じ虐待について再確認することで注意しあい防止に努めている。		

グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	具体的な事例なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは書面にし、ご説明後納得されてからサイン等をいただいている。疑問点など質問しやすいよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。面会に来所された際意見や要望を聴き反映している。また、毎月入居者様の様子や行事の予定を記載したお手紙も工夫している。	週1回から月1回は家族が来所しており、その際に意見、要望等を聞いている。また、毎月、利用者の様子を手紙にして家族に届けている。意見、要望等は運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で意見交換をしている。日々の業務の中でも職員から管理者・代表者へ個人的に提案することもある。	毎月の職員会議において、全職員必ず意見・要望等を述べている。また、管理者が併設の小規模多機能事業所の管理者も兼ねているため、日々の業務の中で主任が意見、要望等をまとめて管理者につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況、実績を把握しており、職員個々の努力や工夫実績を評価し賞与等で反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会をはじめ外部の研修会にも積極的に参加している。研修に参加した職員は後日施設内にて他職員に勉強会としてフィードバックしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連施設である市内3か所のグループホームと連携し行事の情報を流し交流している。		

グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前の事前訪問などによりご本人の話を聞く機会を作り不安等を受け止め、予想しスムーズな関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所または訪問にてご家族の意向やホームに望むこと聴き当初の関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時、管理者が面会を行いどのようなサービスが提供できるかを説明している。また、必要に応じて他事業所の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常会話のキーワードから行っていたことや得意なこと探しホームで行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活や健康状況などを随時報告し暮らしの中でご家族の支援が必要な場合は共に協力しあい支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出を支援したり、馴染みの方々の面会や来所をお願いしている。	家族や知人など、これまでの馴染みの人との関係が途切れないように支援している。法事や馴染みの美容室などへの外出も、家族と協力し支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの入居者様ができることをそれぞれに分担しながら行ってもらい関わり合いや支えあいができるよう支援している。		

グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も要望があれば電話連絡や面会に行き、相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中から本人の言動・表情・行動を通じ思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合はご家族に話を聴き、本人の思いに近づこうとしている。	家族からの聞き取りや、日常の会話、表情などから、一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。困難な場合は、こちらからの問いかけの返事や態度・反応などから把握し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仕事・趣味・家族等の会話を日常会話に取り組み入居者様に合った対応に努めている。また、個人ファイルを利用し職員全員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の興味のあるもの、出きるものを把握するようにしている、各自のペースで生活できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の希望を伺い担当職員を定め職員会議等でカンファレンスを行い他職員からも意見交換し現状に即した計画・見直しを行っている。	本人、家族の希望、担当職員の意見をもとに、職員会議等で問題点を検討し、サービスの調整をしている。介護計画は概ね1年ごとに見直しを行っているが、変化があった場合は、随時見直しをしている。	介護計画の作成にあたっては、家族との意見交換を十分に行い、理解を得ることが必要なので、家族の参加を調整したうえで検討会を行うなどの取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護状況を24時間、個別に経過記録として記録している。ケアカンファレンスを行い情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや、理美容車の手配、月1度の主治医の往診・歯科の往診など、その時折で柔軟な対応ができるよう努めている。		

グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長・民生委員様から地域行事を紹介して頂き参加している。また、消防署やボランティア活動を行っている方と連絡を取り合い協力体制を整えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前から診察を受けいているかかりつけ医の継続を支援している。看護職員が必要に応じて随時状況報告をし適切な医療が受けられるよう支援している。	これまでのかかりつけ医との関係が継続できるように支援している。利用者の多くは、月1回の協力医の往診を受診している。看護師である管理者が、主治医と情報交換して連携を取りながら支援している。また、家族付き添いの受診ではメモを持参してもらい適切な医療が受けられるよう支援している。訪問歯科診療も利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し適宜情報提供、健康管理や状態変化に応じ対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員が中心になり、ご家族と相談したり病院などに情報提供や面会を行い連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時にホームの方針を説明し状態に合わせ本人家族、主治医との話し合いを持ち方針を共有している。重度化した場合や終末期のあり方については家族と十分話し合い主治医の協力を得ながら支援している。	入居の段階で、事業所の方針を説明し、話し合いを持っている。要介護度の高い利用者が多いので、特に、終末期の対応については、家族の希望も踏まえ、主治医との連携を強化して支援できるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って行っている。また、状況に合わせて看護師が対処方法を指示している。職員は普通救命講習を受講し勉強会などで周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの総合避難訓練の実施や市担当者、自治会長、民生委員、ご家族様への参加も依頼し地域との協力も増えてきている。	年2回総合避難訓練を実施しており、うち1回は、消防署立会いのもと実施している。昨年12月の訓練は、運営推進会議に合わせて実施した。水、米、燃料の備蓄を法人で行っている。	ホームにボランティアの発表会がある時地域の見学もあった事から避難訓練の見学や参加のお願いをしたり、法令で定められた年2回の訓練にこだわらず、訓練回数を増やすことや、夜間を想定した訓練の実施などの検討を期待したい。

グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様に対し敬う気持ちを持ち、不適切な言動がないよう注意して言葉掛けや対応をしている。	利用者の人格を尊重し、年長者の誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉づかいや接遇には十分注意を払っている。個人情報書類の取り扱いについても十分に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を言える雰囲気や心がけ職員は出来る限り希望通りになるよう対応している。自己決定が困難な場合は選択肢を数個あげ選んでもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設の生活のリズムはあるがその日の状況や個々の人に合った生活を送ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は好みのもの選んでもらっている。希望に合わせ福祉理容車を利用し希望は細かく伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を把握し提供している。職員は共に食事をし片付けや食器拭きなどご入居者様と共に行っている。	利用者の嗜好を取り入れながら、献立は職員が作成している。食材の買出しは1日置きに職員と利用者が一緒に行っている。後片付けなどに利用者も参加している。外食も毎月のように実施して楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を把握し記録・確認している。個々の嗜好に合わせた料理や飲み物にて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。義歯利用者は夜間に義歯洗浄を行っている。		

グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しスムーズに排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表の活用で把握し、支援している。パットやリハビリパンツ使用者もいるが、全員がトイレで排泄している。誘導の際はプライドを傷つけないような声かけに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、体操を毎日行い予防に努めている。排泄記録をつけ飲食物の工夫もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、本人の希望や状況で変更している。また、汚染時や発汗時は随時行っている。	1日に2～3人づつ、週2回の入浴を支援している。月～土曜日の午後に入浴しているが、必要に応じ、日曜日の入浴も行っている。入浴剤などを使用し入浴を楽しむ支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の生活リズムに合った対応をしている。季節の変化や体調を考慮し施設内温度や光に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が中心になり、内服薬の確認・薬の目的や副作用、容量・用法については内服薬ファイルを活用し医師の指示通りに服薬できるよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、茶碗拭き、パズル、塗り絵など個々の役割や楽しみが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に行くときなど、声掛けを行っている。ホームでも月に1回以上は外食や季節の花見などに外出している、ご家族も参加できるように声掛けしている。	天気の良い日は、散歩に出掛けており、地域の住民とも顔なじみになっている。職員が買物に行く時も、希望で一緒に行っている。月に1回は利用者の希望に沿った外食をしたり、季節に応じて公園や観光施設へ出かける支援をしている。	

グループホームさんぼ道

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にて預かり金として管理している。買い物時はご本人に支払ってもらい見守り手伝っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて、電話をかけ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近に外出時の写真や今後の予定、季節に応じた飾り付けなどをしている。	玄関、居間、居室等の床は、すべて自然木を使用しており、木の温もりが感じられる。共用の空間には不快を招くようなものや刺激は感じられない。壁面には手芸品や写真を飾り付け安心して、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは利用者様同士で話をしたり新聞を読まれたり廊下に長椅子もあり思い思いに過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みのものを持参頂き活用して頂いている。	居室は、エアコン、ベッド、タンスが備えてあるが、利用者は、寝具や馴染みのものを持ち込み、写真や手づくりの品で飾り付け、居心地よく過ごせるようにしている。季節の衣類の交換は家族の協力を得ている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所など常に利用する場所は分かりやすく大きく表示し、支援が必要なことを見極め個々の能力をいかせるようにしている。		